

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 74を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇古代ヤマトの遠景（49）－【中国・朝鮮半島情勢（3）】－

信越化学工業（株） 木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 74を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

9月15日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.74](#)を発行しました。今号の「視点・有識者に聞く」のコーナーでは『地域に根ざす、環境ボランティアの役割』として、よりよい地球環境を次世代へ継承していくために何をすればいいのかなどをテーマに、中央区環境保全ネットワークの川名代表にご登場いただきました。

「インフォメーション」のコーナーは2つとし、阿蘇市の公営住宅にサイディングが採用されたことと、もう一つは住宅エコポイントを活用した断熱リフォームについて山形の(有)親和創建さんを取材し現状と今後の課題を紹介しています。

No. 74の構成は以下の通りです。

○トップニュース

1. 温暖化防止の切り札、塩ビサッシ用型材の JIS 制定
2. 鹿島建設(株)と塩化ビニル管・継手協会が塩ビ管リサイクルで意見交換

○視点・有識者に聞く

地域に根ざす、環境ボランティアの役割

中央区環境保全ネットワーク 代表 川名 一榮 氏

○リサイクルの現場から

軟質塩ビ製品のマテリアルリサイクル最新事情

○インフォメーション

1. 塩ビサイディングの普及に、新たな「追い風」
2. 快調、住宅エコポイント。エコリフォームが加速

○塩ビ最前線

温泉でトラフグ養殖。『ユニーク町おこし』に塩ビもひと役

○広報だより

「下水道展 '10名古屋」(7月27日～30日)の会場から(塩化ビニル管・継手協会)

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」は塩ビサッシ用型材の JIS が制定されたことを紹介しています。原案提出から JIS 発行まで 6 ヶ月と異例な早期制定。制定された JIS の原材料項目にリサイクル材について明記したのが大きな特徴とのこと。今回の JIS 制定により官公庁への働きかけへの足がかりになってほしいものです。

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは『地域に根ざす、環境ボランティアの役割』と題し、中央区環境保全ネットワークの代表の川名さんにインタビューしました。

取材には代表の川名さん、前代表の篠原さん、初代代表の帰納さんにも同席いただき、2002 年から現在までの会の活動の軌跡をご紹介いただきました。また、将来の子供たちのために今何が出来るのかを真剣に考えておられ、その熱い思いを語っていただきました。

「リサイクルの現場から」は JPEC の会員である日本ビニル工業会より様々な軟質塩ビ製品のマテリアルリサイクルの最新情報について紹介しています。リサイクルの優等生の農ビや壁紙の新たなリサイクル手法などについて詳しく紹介しています。

「インフォメーション」では『塩ビサイディングの普及に新たな追い風』と題し、阿蘇市の公営住宅に塩ビサイディングが採用されたことを紹介。納入したメーカーの方の話を中心にまとめています。塩ビサイディングはメンテナンスがほとんどいらないその特徴が採用の決め手になったそうです。戸建てのリフォーム向けが中心だった事業を今後は公共物件に向けて拡大していくとのこと。

「塩ビ最前線」は、海なし栃木県で進められている「里山温泉トラフグ」。水槽が塩ビ製ターポリン。現在は廃校校舎内にある既存の水槽のほかに屋外にテントを設置しその中に新たに水槽を 4 つ新設。一つの水槽あたり 350 匹（通常は 250 匹）の過密養殖にチャレンジ中だそうです。

最近もテレビや雑誌などで取り上げられ、注目が集まっているようです。

是非ご覧下さい。

『PVCニュース』は JPEC のホームページから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

<http://www.pvc.or.jp/>

ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景（49）－【中国・朝鮮半島情勢（3）】－

信越化学工業（株） 木下 清隆

<古朝鮮>

燕が滅んだ後の中国の歴史を前回おおまかに概観したが、今回からは中国東北部の方へ話を移すことにする。ここは朝鮮半島の西北部でもあるが、現在の北朝鮮及び中国の遼寧省・吉林省等がその舞台となる。この民族は先に紹介した「濊^{わい}貊^{はく}」とされているが、更に北方の黒竜江一帯には「肅慎^{しゅくしん}」と呼ばれる民族も居た。この肅慎の後裔が歴史の舞台に登場するのは、渤海^{ぼっかい}国の誕生の頃である。更に後世になると彼らの後裔である「女真族」が「清王朝」を打ち立てることになる。このように「肅慎」族の登場は、歴史的には後世へずれるので、当面は濊貊人が居住していたと想定されている、鴨緑江を挟んだ南北地域辺りに絞って話を進めることにする。この民族は基本的に半農半獵或いは半農半漁がその社会形態であったため、北方の騎馬遊牧民のように直接中国王朝と争い、その後の王朝創建に参画するといった勢力にはならなかった。



初期古朝鮮時代（前7～6世紀）

前222年に燕は秦によって滅ぼされてしまう。秦にとっては燕の領地が増えたため、この地を五郡に分け、郡の長官としての「太守」をそれぞれ任命して統治させた。この時、誕生した「遼東郡」が、これ以降の朝鮮西北部の統治に深く関わってくることになる。

その後、秦のタガが緩み、陳勝・呉広の乱の後、項羽と劉邦が立って秦を滅ぼす。項羽を破った劉邦は漢王朝を開く。この時、劉邦は同郷の幼友達であった武將の蘆縮^{ろわん}を燕王に取り立てる。ところが一国が成ってみると、昨日まで共に敵と戦った武將達が、今度は互いにライバルになり始めた。さらに呂太后は、自分の子である若い皇帝が、百戦錬磨の武將達にいつ叛乱を起こされるか分からない、と怖れはじめる。こうした中で勲功拔群の、股くぐりで有名な韓信が誅殺される。このような新王朝の動きに身の危険を感じた蘆縮は、匈奴へ逃れる。この時、燕に居た衛満^{えいまん}も逃れ、彼は古朝鮮へ向かう。

「古朝鮮」は当時の名称は「朝鮮」であるが14世紀の「李氏朝鮮」と区別するために、後世、このように呼ばれている。その建国の歴史は極めて古いとされているが、定かなことは分かっていない。『史記』によれば、前11世紀に、殷王朝を破った周が、殷の賢人箕子^{きし}を朝鮮の地に送り、朝鮮侯に封じた。箕子は殷の遺民を率いて朝鮮へ向かい、礼儀・農業・養蚕等を教え「犯禁八条」を実施して民を教化し、理想的な国を作ったという。これを「箕子朝鮮」という。以後、伝説化するが高麗時代においても、この箕子朝鮮は受け継がれる。ところが近世になると、中国人を起源とする箕子朝鮮が嫌われるようになり、太白山に降臨した天神の子、檀君^{だんくん}が朝鮮族の始祖であるとする「檀君朝鮮」説が主張されるようにな

った。この檀君朝鮮は現在、韓国・北朝鮮において圧倒的に支持されており、箕子朝鮮は忘れ去られようとしている。因みに檀君朝鮮は前 2333 年に創始されたとされており、日本の神武天皇による建国が前 660 年であるのと比べると、桁違いに古いことになる。なお、太白山は北朝鮮と中国吉林省との国境地帯にある標高 2744m の火山で、白頭山ともいう。

朝鮮へ向かった衛満は、朝鮮王^{じゅん} 準に西方の守りを任されるが、燕・齊等からの逃亡民等を受け入れることで勢力を拡大し、遂には準を追い落とすまでになる。ここに衛満は朝鮮王となるが、その時期は前 195 年頃とされている。衛満は現在の平壤付近に都を構えるが、更に勢力を拡大してゆく。この衛満に始まる朝鮮のことを「衛氏朝鮮」という。衛満の孫の右渠^{うきよ}の時代になると更に隆盛となり、驕慢となって中国への入朝も行わなくなる。前漢の武帝は、色々と説得を試みるが右渠の態度は変わらない。遂に武帝は右渠を討ってしまう。ここに衛氏朝鮮は滅亡した。前 108 年のことである。このころの武帝は、北方の匈奴との戦いに一応の区切りをつけた頃である。従って、衛氏朝鮮の討伐は、それまで手付かずとなっていた中国東北部に、武帝の関心が向き始めたことを示している。

当時、衛氏朝鮮が支配していた地域は現在の北朝鮮のほぼ全域と、更に鴨緑江の北方も含まれていた。朝鮮北方の領域を手に入れた漢は、この地を四郡に分割して統治を始める。この四郡は間もなく二郡に整理され、楽浪郡と玄菟郡^{げんと}が残る。

楽浪郡は、現在の北朝鮮のほぼ南半分を占め、その行政府である郡治を衛氏朝鮮の都が在った平壤付近に置いた。その後、漢は王莽^{おうもう}によって中断されるが、後漢に受け継がれてゆく。その後漢も末期になると国が乱れ始める。その頃、遼東太守として公孫度^{こうそんたく}が登場する。この公孫氏はこの後、公孫康、公孫淵と続くが、彼らは楽浪郡も支配下に収め、更に公孫康は、204 年に楽浪郡の南部地域を割いて帯方郡を設置し、南方の韓と倭に睨みを利かす。時代は魏・呉・蜀が鼎立する三国時代に変わり、中国の北半部は魏が支配する時代になった。公孫淵は華北の魏と南方の呉を両天秤に掛けるような朝貢外交を展開する。更に楽浪・帯方郡の支配者として燕王を名乗るまでになる。怒った魏帝は司馬懿に公孫淵を討たせる。直ちに淵は呉王に援軍を求めたが、にべもなく断られた。景初二年（238）、ここに遼東の公孫氏は滅亡する。これ以降、楽浪郡、帯方郡は魏が直接支配することになる。

この情報を逸早く掴んだ女王卑弥呼は、景初三年に帯方郡へ使者を遣わす。喜んだ魏帝は、卑弥呼に対し「親魏倭王」の金印紫綬を賜い、多くの錦などと共に銅鏡 100 枚を贈った。これが三角縁神獸鏡の話に繋がって行くことになる。この楽浪郡と帯方郡は、313 年に高句麗によって滅ぼされる。この間、楽浪郡はその創設から約 400 年、帯方郡は約 100 年間、朝鮮半島の支配者として君臨し続けたことになる。

以上が楽浪郡の変遷であるが、これに対する玄菟郡は、その郡治が数度に亘って移動するという数奇な運命をたどる。この玄菟郡の中に高句麗県があり、ここから後の高句麗国が誕生することになる。玄菟郡も 404 年に高句麗によって滅ぼされた。

古朝鮮の歴史は、古いほうから「檀君朝鮮」「箕子朝鮮」「衛氏朝鮮」と、続くことになるが、考古学的にその存在が確認されているのは「衛氏朝鮮」からとされている。このこと

は、前二世紀頃、既に鴨緑江を挟んだかなり広大な地域に「朝鮮国」と呼ばれた国が存在していたことを意味している。ところがこの古朝鮮はどこに属するのかわからず、現在論争が起きている。中国は「古朝鮮・高句麗・扶余・渤海は中国の地方政権であり、その歴史は中国史の一部である」との史観を唱えており、北朝鮮と韓国はこれに強く反発している。このような歴史認識問題は、将来の国境問題にまで発展しかねず、両者共に一歩も後に引けない問題となっている。従って、北朝鮮と韓国民にとって古朝鮮の始祖は、どうしても「檀君」でなければならないのである。

(つづく)

前回の「古代ヤマトの遠景」(48) - 【中国・朝鮮半島情勢(2)】 - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/283/mag_283.pdf

以前の「古代ヤマトの遠景」は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/list/yamato_list.pdf

■ 編集後記

ほとんどの方がご存じないのかもしれませんが、毎日テレビを見ると、画面の下に「早く地デジに下さい!」という勧告文が流れます。先日までは、「アナログ放送をご覧の皆様へ」という呼びかけから始まっていたのですが、今は、それすらありません…。3Dテレビやら、クアトロンやらの様子をうかがっていたのですが、欲張っているうちに19年間働いてくれた冷蔵庫が壊れてしまいました。『暑過ぎると冷蔵庫の冷えも悪いのかしら?』などと呑気にしていたら、ある日氷が融け始めたのです。一大事です。家電屋さん直行。地デジおあずけ。さらに、この夏オーバーワーク気味の15年選手のエアコンの調子がいまいちです。その上、給湯システムのメンテナンス期間が終了するので、買い換えませんか?との案内が来ました。なんで一度に?こうなったら、家電エコポイント制覇を目指せるかな…。(漠)



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp